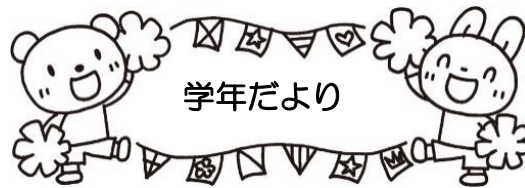


令和6年10月10日

4歳児保護者の皆様

兵庫教育大学附属幼稚園

4歳児担任



今週末は運動会ですね。「運動…体を動かすこと、会…みんなで集まること。だから、今日も運動会だね」と話しながら繰り返し遊ぶ中で、4歳児は、友達や先生と同じ遊びのルールやイメージをもつこと、体を動かして遊ぶ楽しさや面白さを感じることを大切にしてきました。

学年通信では、繰り返し遊ぶ中で子どもたちの様子とともに運動会当日の流れをお伝えできたらと思っています。

1. 体操「わんぱく体操」

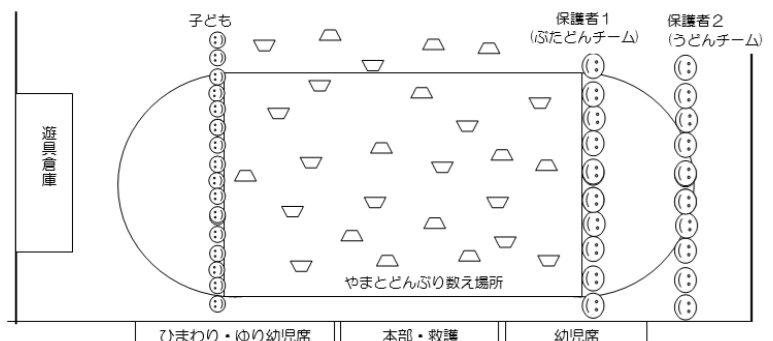
生活の中で思わず口ずさんでしまう子どもたちの姿が見られるほど、心がワクワクする体操です。これは、すみれ組、わかば組の子どもたちが「一緒に体操をしよう」とひまわり組、ゆり組の子どもたちに誘いかけ、遊戯室で踊ってみせてくれたことがきっかけで、踊り始めました。

一人一人に自分の好きなポーズがあり、歌ったり、体を動かしたりと一人一人の楽しみ方もあるようです。運動会の日、運動場の好きな場所で踊ります。曲を全身で感じながら体を動かしたり、掛け声をかけたり、ポーズを決めたりしている姿を見てください。

3. 山どん 山どん 山どんどん

7月、9月のふよっこデーでのひまわり組・ゆり組の子どもチーム対保護者チームの対決は1勝1敗の引き分けでしたね。「次も勝ちたい」とたくさんの山の中からどんぶりを見つけたり、どんぶり79個をみんなで山にひっくり返したりしてきました。山にひっくり返す時間は最初よりも10秒以上短くなって、子どもたちはどんどん山作りが上手になってきています。先生チームと戦っても負けなしの子どもたちです。でも、そんな子どもたちもすみれ組・わかば組の子どもたちとの勝負には勝てませんでした。終わった後のどよ～んとした空気…それだけ頑張っていたのでしょう。勝つ嬉しさを知っているからこそ勝ちたかったのでしょう。「だってすみれ組とわかば組大きいし」「うめ組ともも組を呼んでくる？」という会話も聞かれ、自分たちで悔しい気持ちを収めよう、次に気持ちを向け勝てる方法を考えようとする姿が見られ、少しずつ心も育っていることを感じ、嬉しくなりました。

運動会当日、「山どん山どん山どんどん」は、子どもチーム20名対お家の方チーム10名、勝負の時間は60秒で2回戦行います。1回戦は子どもチーム対保護者1チーム、2回戦は子どもチーム対保護者2チームです。そこで、子どもがくじを引き、お家の方のチームと名前（ふたどんチーム、うどんチーム）を決めました。チームを4歳児保育室前掲示板でお伝えしますので確認をお願いします。前の競技が終わりましたら呼びかけをします。やる気満々で運動場に出てきて、右の図のようにチームごとに分かれ、しゃがんでください。

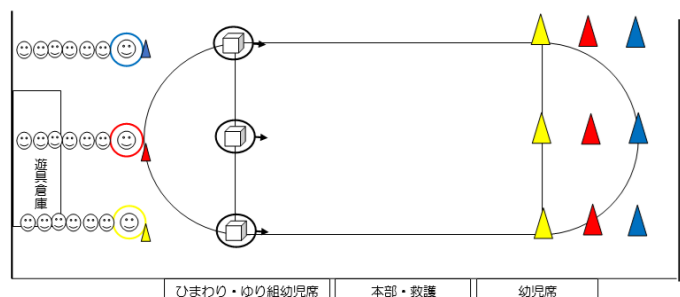


9. さいころ ころころ ランランラン

ゲームボックスやコーンを店や山に見立て「みんなでお店まで行こう」と誘いかけたことから遊びが始まりました。初めはお店に着いたらそこで遊び始めなかなか帰ってきてくれない子どもたち。「早く帰ってきてよ」の教師の呼びかけも気にせず、最後はお店まで迎えに行くことに…。「今日はどのお店に行く？」とお店を3つ出し好きなお店まで行ってみたい、駐車場を作り車の鍵をもらい出かけたこととイメージの世界で遊ぶことを繰り返すうちに少しずつ、目の前に並んでいるコーンを回って返ってくる、次の人にタッチで鍵を渡すこと、鍵をもらおうと走れることなど遊びのルールが分かり始めた子どもたちです。早く走りたい気持ちから思わずスタートの駐車場から出る、いっぱい走りたくていろんなコーンを回り蛇行運転をするなどもありました。そんな時は警察の登場です。「お巡りさんです！」と登場した教師を見ると、スーッと駐車場に戻ったり、まっすぐ走ったりする子どもたち。言葉で聞いた世界を想像し、その世界に入って遊ぶ子どもたちの姿に、子どもの想像力の豊かさやすばらしさを感じました。

教師の「どこの色が早く帰ってこれるのかな」の投げかけから始まった色ごとの競争。繰り返し走るうちに好きな色じゃなくて黄色に行くのが早いことに徐々に気づき始める子どもたち。でも4歳児にとって人数を合わせることに気付くのはとっても難しいこと。どのチームも同じ距離にあるコーンを回ってくる競争を繰り返すも、子どもたちは勝った色が強いと思い、赤が勝つと赤に、黄が勝つと黄に集まっています。一つの色に集まるからこそ見えてくる勝った理由。「だって（勝った色）人数少ないもん」の声。本当に3人のチームができるほどになっていました。ある日偶然一つの色だけが一人多い状況のチーム分けになった時、いい勝負だったのに最後に一つのチームだけが走ることに…。これは人数を考えるタイミングだと思い「なんでやろ？」と問いかけてみると、「一生懸命走ってなかったんちゃう？」と他の色の子もたち。「一生懸命走った」という負けた色の子もたち。「なんでやろ？」と言いながら教師がチームの色のコーナースポットを「これは〇〇さんやろ」と並べていきました。すると負けた色だけ一人多いことに気付いた子どもたち。その日休んでいた子どもの分のコーナースポットを置くことで、ひまわり組、ゆり組の子どもたち全員で走ると一つの色だけ一人少なくなることに気付いた子どもたち。7人で走ることの大発見した子どもたちの中には思わず「そうか！」とつぶやく姿も見られました。その日からどのチームも7人で走ってきました。新たに行き先（黄、赤、青）を教えてくださいサイコロも加わり、運もないと勝てない競争になりました。サイコロの振り方も一人一人違って面白いのでそこにもご注目ください。

運動会当日もいつも通り自分の好きな色を選び、好きな順番で走ります。どのチームになるのかは当日の休憩後、靴箱上に置く掲示板でお知らせしますので確認をお願いします。



子どもたちは、運動会でお家の方と“やまとどんぶりづくり”を競い合うことを楽しみにしています。保護者の方の本気を子どもたちに見せてあげてください。運動会が終わった後、「いい勝負だったね」「楽しかったね」「悔しかったね」「頑張ったね」と親子で話ができることを願っています。ともに子どもたちが楽しかったと思える運動会を作りましょう！！